

令和4年度県立勝田工業高等学校自己評価表

目指す 学校像	教育活動全体を通して、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成を図る。また、ものづくり教育を通して、グローバルな視点を持ち対応できる創造力を備え、地域や産業社会に誇りと愛着を持ち貢献できる生徒、自らの将来像を明確にイメージし、その実現のために具体的に行動できる生徒の育成を目指す。				
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標		達成状況
<成果> ・令和3年度本校総合工学科卒業生約61％ が就職(内定率100%)、39%が進学して いる。大学進学者が30人、国公立大1名合格 ・生徒の問題行動による指導件数が少なく、頭 髪服装指導における協力体制が維持されて いる。 ・学校行事における生徒会活動は活発であ り、部活動加入率も70%程であり、運動部・ 文化部と共に活発に活動している。 <課題> ・基礎学力の定着と授業や学習への取組の充 実及び個々の生徒の専門性を高める指導体 制の確立及び定着化が必要である。 ・体系的なキャリア教育を推進し、生徒一人 一人が希望する進路の実現を目指す指導の 更なる充実が必要である。 ・登下校の際や校外における問題行動の未然 防止に努め、生徒理解を踏まえた規範意識 を育む指導を実践していく必要がある。 ・資格指導・ものづくり競技会等に不参加や大会 中止など活動で結果が出せなかった。様々 な広報活動等もコロナ感染症対策でうまく活動 できず、令和4年度入学者選抜において志願 倍率が0.90倍で募集定員割れをした。	個々の希望を実現する キャリア教育の推進	①地元企業等との連携事業や企業体験学習を拡大・充実させ、確かな学力(生きる力)を身に付けさせ主体的な 進路選択ができるようにする。 ②大学等との連携事業、大学の出前授業、自校での進学補講等の充実を図り、希望する大学への合格を目指す。 ③段階を追ったキャリア教育を行うため、キャリア・パスポートの活用を通し勤労観や職業観の育成を図り、就職希 望者の内定率100%、進学希望者の合格率100%達成を目指す。		A	
	個性を生かしながら伸 ばす充実した教育の実 現	④単位制総合工学科として適切な教育課程の研究と実践に努め、授業規律の確立と基礎学力の定着に努めながら、 個々の生徒の専門性の深化を目指す。 ⑤基礎資格の合格率アップを目指すとともに、電気工事士や技能検定等の高度な資格取得への挑戦者と合格者を 増加させ、ジュニアマイスター取得30名を目指す。 ⑥言語活動の充実を通して、コミュニケーション能力を高め、グローバル化した社会に対応できる人材を育成する。		B	
	根幹となる豊かな心の 育成と安全教育の推進	⑦基本的生活習慣を確立させ、規範意識の醸成と問題行動の未然防止を図る。 ⑧施設設備の点検と安全教育を充実させ、学校事故撲滅を目指す。 ⑨ホームルーム活動の活性化と、学校教育全体を通じた道徳教育の推進及び、ボランティア活動の充実を図り、 いじめ問題等の未然防止に努める。		A	
	部活動・特別活動の更 なる活性化と主体性の	⑩部活動への積極的参加を奨励するとともに、生徒の自主的活動の活発化と学校行事への主体的な参加を促す。 ⑪特別活動の充実を図り、学校行事等を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。		A	
	学校内外への充実した 広報活動の推進	⑫開かれた学校づくりを目指し、中学校への出前授業や公開授業を実施するとともに、学校のホームページを通して 地域や保護者・中学校等へ情報を発信することで、本校の特長をアピールする。 ⑬PTA行事等の保護者への周知を図り、参加を促すことによりPTA活動の活性化を図る。		B	
	教職員相互に業務内容 の改善と平準化に取り 組み、時間外勤務縮減 に向けた意識改革と行 動改革の推進	⑭各校務分掌ごとに業務内容の重複や点検と整理に努め、教職員の在校時間の適切把握と健康管理を推進する。 ⑮業務内容改善のために、指導の質の維持・向上を図りつつ継承、整理・統合、精選等を検討する。 ⑯授業準備や自己研鑽の時間を確保し、より質の高い授業や個に応じた指導を行うため、地域や保護者に理解を得 ながら、学校や教員が担う業務を整理し、ICTの有効活用により、学校の実態に即した情報の共有化や会議の 効率化等に努める。 ⑰茨城県の部活動運営方針及び本校の部活動等に係る活動方針により、実施環境を構築する。		A	
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に 関する方針」 (グラデュエーション・ポリ シー)	(長期的目標) ①心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成。 ②グローバルな視点で対応できる力を備え、地域や産業社会に貢献できる生徒の育成。 ③自らの将来像を明確にイメージし、その実現のために具体的に行動できる生徒の育成を目指す。		B	A 来年度より道徳の授業がなくなるので、学 校教育全体で豊かな人間性を備えた生徒 の育成を目指したカリキュラムの検討が必要。 令和4年度再開した、ひたちなか人財育成 委員会と連携し自ら課題を見つけ行動で きる探究活動を行っていく。
	「教育課程の編成及び実施 に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ①地域との連携を図り、体験型キャリア教育を目指すとともに、自ら課題を見つけ、自ら行動できる態 度の育成。 ②基礎・基本の確実な定着を図るとともに、科目選択学習による個性を伸ばす教育の実現。 ③安全教育の実践による学校生活を実現するとともに、他人を思いやる豊かな心の育成。		A	
	「入学者の受入れに関する 方針」(アドミッション・ポリ シー)	(短期的目標) ①ものづくりや工業的な分野に興味を持ち、深く探究しようという強い意欲のある生徒。 ②自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒。 ③規範を遵守した生活を送ることができ、学校行事、部活動などに積極的に取り組む生徒。		A	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上を図る。	社会人として必要な国語常識を身につけさせるために、教科書だけでなくテキストを積極的に活用する。また、資格取得に向けた課外や、進路に合わせた小論指導などの個別指導を行う。④⑦	A	B	基礎学力の向上をめざし国語常識のテキストを活用してきたが、引き続き知識の定着を目指し、課題提出などの習慣化をはかりたい。漢検は前年度と比較し受験希望者が多く、実施することが出来た。今後は合格に向けた指導の工夫をしていきたい。電子黒板を使用し、便宜やタブレットを活用した授業を実施したが、今後も改善が必要である。
			授業でのルール及びマナーを身に付けさせるとともに、ノート等を定期的に点検し、授業に対する真摯な取り組みを習慣づけさせる。④⑦	B		
			授業では言語活動を取り入れ、判断力や表現力、お互いを理解する力を育成する。④⑥	B		
		授業の改善を目指す。	指導方法や内容について話し合い、必要に応じてIT機器を活用するなど、授業の充実と改善に取り組む。⑥	B		
	地歴	基礎学力の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させることで落ち着いた学習環境をつくり、基礎学力の定着を図る。④⑦	B	B	クラスルームや視聴覚教材、電子黒板でのスライド資料を積極的に活用して、わかりやすい授業を目指した取り組みを進めることができた。また、学習ノートを定期考査ごとに回収して評価するなど、教科として統一して取り組むことができたので、来年度以降も継続したい。学習内筒の理解が不十分な生徒に対する補修や課題といった指導は、積極的に開催することができなかったため、次年度以降の課題としたい。
			学習ノートを積極的に活用し、定期的に評価することで学習意欲を高める。④	A		
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。④	B		
		指導方法の工夫と研究を行う。	導入や教材を工夫することで学習意欲を高める。④	B		
			分かる授業のために授業形態など指導方法を工夫する。④⑥	B		
			視聴覚教材や史資料を積極的に活用し、生徒の資料活用能力を培い理解を促進する。④	A		
			ICT機器を積極的に活用し、生徒の自主的な活動を促す。④	A		
	公民	基礎学力の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させることで落ち着いた学習環境をつくり、基礎学力の定着を図る。⑦	B	A	クラスルームや視聴覚教材、電子黒板でのスライド資料を積極的に活用して、わかりやすい授業を目指した取り組みを進めることができた。さらに、現代に即したテーマを扱うことで、生徒の興味を引き出し、学習意欲を喚起することができた。また、学習ノートを定期考査ごとに回収して評価するなど、教科として統一して取り組むことができたので、来年度以降も継続したい。学習内筒の理解が不十分な生徒に対する補修や課題といった指導は、積極的に開催することができなかったため、次年度以降の課題としたい。
			学習ノートを積極的に活用し、定期的に評価することで学習意欲を高める。④	A		
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。④	B		
		指導方法の工夫と研究を行う。	導入や教材を工夫することで学習意欲を高める。④	A		
			視聴覚教材や史資料を積極的に活用し、生徒の資料活用能力を培い理解を促進する。④	A		
			ICT機器を積極的に活用し、生徒の自主的な活動を促す。④	A		
	数学	基礎学力の向上を図る。	基礎学力が定着していない者や成績不振者に対して、学力向上を助けるため補習を行う。④	A	A	基礎学力の定着を図るための補習や検定試験のための課外などを積極的に行うことができた。また、休校中はタブレットを活用し、授業の動画配信を行うことができた。来年度に向けては、今の取り組みは維持しつつ、習熟度別の授業形式の検討、検定試験において2級の2次試験の合格者を出せるよう努力をしていきたい。
			定期的な課題の提出や、小テスト等を利用して学習の理解度を確認する。④	B		
			机間指導を通して、学習の遅れがちな生徒を把握して補足説明を随時行う。④	A		
		生徒希望に応じた学力の向上を図る。	より深い内容の学習を希望する生徒のために、課外や検定試験を実施する。②	A		
	理科	基礎学力の向上を図る。	基礎学力の向上を目的として、基本事項の確認だけでなく、問題演習や小テスト等を実施し、生徒達の理解度を把握しながら個に対応した授業を進めていく。④	B	B	2年次まで、タブレットの数が揃い、授業プリントのような静止画だけではなく、動画を利用して授業を展開できるようになった。現象を時系列で理解できるように工夫した。また、家庭学習の時間を確保する助けになるよう、基礎的な内容の演習問題で基礎学力をつけるよう務めた。理科の内容がどのように応用されていくのか興味を持たせることが今後課題である。
		理科に対する興味・関心を深めさせる。	日常生活との関わり軸とし、科学技術が人間生活に果たした役割を意識することで、理科の内容に関する興味・関心を深め、学びへの主体的態度を身に付けさせる。④	A		
		生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	授業内容・説明・板書・電子黒板等の方法について授業担当者間で協議を行い、生徒の実態に応じた授業を急がずに行う。④	B		

教科	体育	自己の基礎体力の向上を図る資質・能力を育成する。	体力テストでの目標設定を明確にし、意欲的に取り組ませる。 運動量をできる限り確保し体力の向上を図る。	④	B	A	去年運動する機会が少なかったことにより体力が落ちていたように見受けられた。コロナ禍ということはあるができる限り活動できる機会を増やし来年度目標が達成できるように努めていきたい。また体育を行う中でマスク着用した中での運動が困難なため健康管理についても今後対応していけるよう引き続き考えていきたい。
		運動の実践による運動の多様性・体力の必要性を理解する。	球技において種目を選択させ、生徒達で練習計画を立てて競技を進める能力を身に付けさせる。競技特性を理解し、取り組みを通して協力する態度を養う。	④	A		
		生涯を通じて運動に親しんでいく能力や体力を育てる。	球技において種目を選択させ、生徒達で練習計画を立てて競技を進める能力を身に付けさせる。競技特性を理解し、取り組みを通して協力する態度を養う。	⑦・⑨	A		
		個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに自他や社会の課題を発見する。	日常生活における健康や安全について関心を持ち自己の健康管理・安全行動に活かすことが出来る。	⑥・⑦	B		
		生涯を通じて健康な生活を送ることが出来る資質や能力を育てる。	保健ノートを定期的に提出させ点検し、健康についての理解を深めさせる。 や時事についての関心を高め、教科学習に活かす。	⑦・⑨	A		
	芸術	積極的に電子機器を活用し基礎技能の向上を図る。	授業を受けるマナーの向上を定着させ、課題に対して落ち着いて取り組める雰囲気づくりに努める。	④	C	C	3年生の美術Ⅱは、年間3分の1程度はノートパソコンを活用したICTの授業を展開できた。しかし、1年生の美術Ⅰでは3、4時間程度しか活用できなかった。
			美術Ⅰ、Ⅱの授業において特にCG作品制作のためのクロムブックの効果的な活用を目指し基礎技能の向上を図る。	④	C		
		安全教育の徹底。	材料・用具類の整備と管理を確実に行うと共に、正しい使い方や活動前の準備と後片付けなどの指導を徹底する。	⑧	B		
	英語	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけさせ、基礎的な能力を身につけさせる。	毎時の授業を通して、円滑なコミュニケーションのとれる生徒を育てる。	③	B	B	単語テストや発表形式のパフォーマンステストについては、総じて熱心に取り組む様子が見受けられた。一方で、英語を介したやりとりの段階にまで発展させられた生徒は少ない。ICT機器を有効に活用しながら、個性に応じた発信力をいかに育成させられるかが課題となる。ALTに関しては11月に来校したばかりであり、未知数な部分が多い。今後、状況を見ながらサポートしていく必要がある。
			基礎的な文法力と語彙力を身につけさせる。	④	B		
			リスニング検定などを有効に活用し、実践的な英語力を身につけさせる。	④	B		
		異文化理解を深める。	ALTとのTeam-Teachingや英語による授業を展開することにより、英語に多く触れさせる。	⑥	B		
	家庭	自分の生き方に関わる内容を学習することで、常に「今」より充実向上した生活が図れるような能力と実践力を育む。	生涯発達の視点で、家族や家庭生活のあり方を理解させ、よりよい家庭を築いていくことの重要性を認識させる。	④	B	B	課題やアンケート、実習でPCを使用する機会を増やして生徒の言語活動が図れるように進めることができたが、さらなるICT活用方法の改善が必要である。また、実習は生徒の技術力に大きな差があるため、より効果的な実習を進めるための教材選定も課題である。
			家族の生活が健康で安全に営むことが出来るように、衣・食・住・環境・消費生活に必要な知識と技術を習得させる。	④	B		
			ホームプロジェクトを通して、家庭生活の改善向上のため主体的解決をはかる実践力を身に付けさせる。	④⑥	A		

教 科	総合工学	教科指導の充実を図り、基礎・基本の定着と専門性の向上に努める。	工業の基礎・基本となる重要項目を習得させるために、各種教材やICT機器等を活用した分かりやすい授業を展開する。 ④⑥	A	B	実習においてもタブレットを活用する機会が増えてきたが、分かりやすい授業と有効的なICT機器の活用について検証する必要がある。老朽化・消耗している設備・機器もあり、計画的に保守整備や更新していく必要がある。各種資格取得指導における指導体制の構築が必要である。
		安全教育の徹底と施設・設備の維持管理に努める。	実習を通して専門的な技術・技能の習得に努めるとともに、地元産業界や大学・専門学校等と連携しキャリア教育の充実を図る。 ①②③	B		
		安全教育の徹底と施設・設備の維持管理に努める。	安全教育を徹底し災害防止に努めるとともに、実習服や保護具の正しい着用と安全作業(知識・技能・態度)について指導する。 ⑦⑧	A		
		各種資格取得を奨励する。	実習室等の整理整頓と施設・設備の安全点検を定期的実施するとともに、カリキュラムに対応した施設・設備の充実を図る。 ⑧	B		
		各種資格取得を奨励する。	各種資格取得指導において中長期的な計画に基づいた指導により合格率の向上を図る。 ⑤	A		
	道徳	自他の生命や人権を尊重する精神と、公共のマナーについて考えさせる。	基本的な生活習慣の確立と集団としての自覚をもち、善悪の判断ができる生徒の育成を目指す。 ⑦	B	B	・前年度より『総合的な探究の時間・道徳』の科目名となり、年間の半分が道徳の授業となる。学校公開を含める限られた時間で十分に成果を上げるために、教材等の共有、事前準備が大切であると思われる。 ・コロナ禍により計画通り実施する事が困難であったが、学校公開では多くの保護者が来校したので、毎年実施していきたい。
		何事にも誠意をもって取り組み、やり遂げることの重要さを意識させる。	本校の校訓である「正しい判断・強い意志・清い生き方」に自覚と誇りをもち、将来地域社会に対して積極的に奉仕できる人間の育成をめざす。 ⑨	B		
	教務	新教育課程の円滑な実施。	各校務分掌、教科、学年、教育課程検討委員会と連携を図り、新教育課程の観点別評価における問題点の把握、改善等を行い、円滑な実施を図る。また、年間授業時間の確保に努める。 ④	A	A	・新教育課程の観点別評価における問題点を把握し、その改善等を行うことができた。 ・情報管理部と連携をとって、特に成績処理マニュアルの案内文書を先生方に提供することが出来た。 ・学校パンフレットの充実を図ることが出来た。 ・総合的な探究の時間をどこの部署が責任をもって計画・立案していくか、扱いをはっきりさせたい。
		校務支援システムの活用と情報管理部との連携協力。	情報管理部との連携協力体制を強化し、校務支援システムの運用整備、改善を図る。特に、出欠登録・成績処理・要録作成業務等を円滑に行えるよう、連携を図る。 ⑬	A		
		学校PR・広報活動の充実。	広報委員会、進路指導部、特活指導部と連携し、中学生対象の学校説明会、部活動体験、中学校訪問を計画的に実施する。また、学校パンフレットの充実を図ると同時に、情報管理部と協力して学校HPの充実を図る。 ⑫	A		
	情報管理	各種管理システム運用の推進。	校務支援システムを学年および教科との連携を図り、円滑・効率的な運用を図る。 ④	A	A	専門的な知識や技術を要する為、異動にともなう円滑な引継ぎが困難であった。校務支援システムや学校ホームページが今年度新システムへ移行したが、校務支援システムへの迅速な不具合対応やホームページを活用した積極的な情報発信に努めることができた。個人情報の取扱いに関しては関係部署と連携を図ることができたが、禁帯出の管理については次年度以降の持越しとなる。
		個人情報取扱規程の整備。	校内個人情報の取り扱いについて、持ち出し禁止区分を明確にする。 ⑧	B		
		インターネットを活用した広報活動の推進。	本校Webページの更新を行い開かれた学校づくりを目指し、本校の特徴をアピールする。 ⑫	A		
		緊急情報メールの管理。	緊急情報メールの登録者を管理し、学校からの緊急連絡や、情報を配信する。 ⑬	A		
庶務		PTA総会等各種行事の連絡を、PTA会員やPTA役員に対し確実にを行い、連携を密にする。	PTA総会等各種行事の連絡を、できるだけ早い時期に確実に、PTA会員やPTA役員に対して行い、各種行事等への参加率を高める。 ⑬	A	A	今年度からメールにて役員会等の連絡をおこなった。メールの登録をしてない保護者には従来の封筒に文書を入れて生徒経由で連絡していた。メールが届いていない保護者がいたので連絡に抜けがないようにしたい。
			PTAの広報紙を通して、学校の教育活動やPTA活動を工夫しPRする。 ⑫	A		

学習指導	基礎学力向上・定着を図るとともに進学希望者にも十分な基礎学力の向上。	更なる学力の向上につなげるために、1年次にICTを活用して基礎学力を中心とする指導をする。学年と協力して基礎学力の定着を図る。進学希望者については進学課外・出前授業への参加を通し、進学に対しての意識や意欲を高める。	②④	B	B	コロナの影響が残る中、資格取得に向けて生徒たちが頑張っているものの、発熱や濃厚接触の判定などで指導が途切れがちになったことは否めない。しかし、2名の特別表彰が出るなど、例年以上の結果を出すことができた。 基礎学力向上については、生徒の自主性を踏まえた指導ができたものと考えられる。 大学出前授業も、ほぼ計画通りに実施することができた。
	学習意欲向上と専門性の深化に選択制を活かす。	卒業後の進路を生徒に考えさせ、進路につなげるための科目選択をさせるようにし、進路に関わる学習に対しての意識を高め、保護者との連携を密にして意欲を引き出す。	④	B		
	資格取得の更なる推進を目指す。	顕彰制度を利用して生徒の資格取得への意欲を刺激し意識を高めさせるようにする。	⑤	A		
特別活動	学校内外への広報活動の推進	学校のホームページを通して地域や保護者・中学校等へ情報を発信し、本校の生徒会活動や部活動の特長をアピールする。	⑫	A	A	コロナ禍で様々な状況で、制限があると思われるが、早目に決定して、行事がスムーズに行えるように努力したい。 生徒会が中心となって、生徒全体で学校行事が運営できるような体制を作りたい。
	ホームルーム活動を活性化させる。	年間計画に基づき各ホームルームの活性化を図るとともにより一層具体的な活動が行えるように努める。また、各分掌から出されるテーマをLHRに反映し効率的な学級活動を展開する。	⑨	A		
	部活動への積極的参加を促す。	各部活動資料を活用し、実演などを取り入れたPRを行う。また、部活動参加率が全生徒の70%以上になるように働きかけ、参加率の増加と意識の高揚を図る。	⑩⑪⑰	B		
生徒指導	基本的な生活習慣と規範意識の確立を図る。	基本的な授業態度の育成、学習習慣の確立、遅刻の減少を図る。(遅刻カードの活用)	⑦⑨	B	B	・自転車の乗り方でルールやマナーの指導を徹底したい。交通安全に努めるようにさせるよう工夫しながら支援していきたい。 ・コロナ禍の影響で集会等が行われずに意識向上が図れなかったが11月にあいさつ運動ができ、規範意識の向上に繋がった。 ・頭髪、服装指導の変更点に関する教員間の指導について統一を図っていきたい。 ・SNSで個人情報に関する事が増加してきている、講習会は年1回であるが授業の中に取り入れ伝える事の工夫をしていきたい。 ・特別指導で授業を受けながらの指導が定着してきた
		登校指導・昼休みの巡視を1日2名で通年実施する。また定期考査中の校外巡視の実施。	⑦	A		
		HRIにおける交通安全教育、交通講話(外部講師)・バイク指導、自転車点検等の実施により交通マナーやルールを守る心を育て、命の大切さを呼びかける。	⑦⑨	A		
		薬物乱用防止教室を実施する。	⑦⑨	A		
	工業人として清潔な頭髪服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	全職員で服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	⑦	A		
	学校教育全体を通じた道徳教育を推進する。	心の教育を進め、他人を思いやる豊かな心の醸成に努める。また、いじめ防止および早期発見のため「生活アンケート」を利用し生徒への実態把握に努める。	⑦⑨	B		
		携帯電話の使用制限を守り、マナーある使い方を指導する。	⑦⑨	B		
進路指導	望ましい職業観・勤労観を育成する。	学年と連携し1年次より計画的な進路指導を行い、自己の能力・適性を生かし望ましい職業観を育成する。	①②③	B	B	・コロナ禍を踏まえた進路指導の模索。 ・ITコンテンツ等の充実。 ・学年や公務分掌との更なる連携。 ・キャリアパスポートの活用模索。
		インターンシップや進路セミナーなどを通して、職業観・勤労観の形成に努める。	①②③	B		
	生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路指導の充実を図る。	企業への求人要請を進めるとともにそれぞれの企業が求める人材の的確な把握に努め、就職希望者の早期合格内定率100%を目指す。	②③	A		
		進学希望者が学部学科を適切に選択できるよう大学・専門学校との情報交換を進める。	②	B		
		3年次との連絡を密にし、保護者会や三者面談で進路に関する情報を積極的に提供する。	①②③	A		
	地域との連携を深め、地域が求める人材育成を図る。	ひたちなか市や学校評議委員会等との連携を図り、企業が求める人材を育成するとともに、就職時のミスマッチの解消や早期離職の防止に努める。	①	B		

保健指導	危険防止と環境整備のために清掃活動や校内安全点検を継続実施する。	環境整備委員会を中心に、全学年一斉清掃・環境整備に取り組む。また、安全点検表を利用して清掃分担ごとに月一回の点検を行い、改善すべき箇所がある場合には迅速に対応する。	⑧	B	B	・校内の安全・衛生と、生徒・職員の健康な生活を維持するための取り組みを引き続き行う。 ・疾病対策の徹底と啓発を図る。
	生命尊重に関する教育の実施。	勝工安全の日に、全校生徒を対象として、生命尊重に対する講話を実施する。さらに1年次を対象に、専門講師を迎えて性教育・救命救急(AED)講習を実施する。	⑨	A		
	病気やけがを予防するための対策の充実。	病気やけがについて、正しい知識と現状に合った情報伝達を心掛ける。また、感染症対策を継続する。	⑦	B		
図書	情報提供サービスの向上と充実を図る。	レファレンスサービス、リクエスト予約サービスの充実に努める。	④⑤	A	A	コロナ禍であったが、文化祭でのイベント参加や生徒の店頭選書、ミニトショ！など、生徒の活動は活発に行うことが出来た。しかし今後も、幼稚園や他校との交流は難しいと考えられるため、オンラインの活用等活動の見直しが必要である。また、今後、自学自習の場として調べ学習に対応できるように、参考図書の拡充等環境整備に努めていきたい。
		生徒の知的好奇心と興味を抱かせる書籍の選定と購入に努める。	④⑤	A		
	図書委員会活動と行事の充実を図る。	図書委員会活動を通じて図書館とクラスのパイプ役としての意識を高める。	⑨	A		
		読み聞かせ体験を通じた幼稚園との交流により社会性を学ぶ。	⑪⑫	C		
		読書会や研修会、芸術鑑賞会等の行事の充実に努める。	⑩⑪	B		
	施設の有効利用と環境整備の充実を図る。	自学自習の場としての図書館の利用を促進する。	①②③	A		
		利用簿等の活用により、授業・LHR等で視聴覚室の利用促進を図る。	④⑨	A		
1年次	基礎的・基本的な知識・技術・技能を身に付けさせる。	真摯な態度で授業に臨ませる。提出物の期限を守らせる。資格・検定試験に意欲的に取り組ませる。家庭学習を習慣化する。	③④⑤	B	B	生徒はおおむね、挨拶やルールを守るなどの基本的な生活習慣の確立に努めることが出来た。年次教員間の情報共有がはかれ、未然に生徒間トラブルを防ぐこともあったが、生徒把握が足りず防げない部分もあったので、今後もきめ細かく指導に当たっていきたい。
	基本的な生活習慣を確立させ健全な高校生活を送らせる。	時間を守り、自主的に挨拶・返事ができるようにする。身近なルールやマナーを守らせ、安全で安心な高校生活を送らせる。	⑦⑨	B		
	協調性や他人を思いやる豊かな心を育てる。	積極的に学校行事に参加させ、協調性や思いやりを身に付けさせるとともに、集団生活の中で責任ある行動がとれるようにする。自分の存在意義を認識させる。部活動に積極的に参加させる。	⑨⑩⑪	A		
2年次	健康管理に心がけ、何事にも全力で取り組むことのできる意欲と体力を育成する。	自己管理能力を養う。規則正しい生活ができるように高校生としての自覚を持たせ、規範意識の向上に努める。また、社会的信頼の大切さを認識させる。毎日の清掃と教室の整理整頓を徹底させる。	⑦	B	A	・中だるみの時期とコロナ禍が重なり、規則正しい生活を維持するのが難しい生徒も見られた。今後も生徒の心身の健康を第一に考えながら、進路実現を促しながら教職に粘り強く指導にあたっていきたい。
		高校生活における身体的・心理的な安全を最優先させる。そのため保護者との連携を密にとるよう努める。	⑧⑬	A		
	将来を見通し、高校生活の中で得られる知識・技術・技能の習得に努めるとともに、豊かな社会性を身に付けさせる。	授業第一を徹底し基礎学力を身に付けさせ、資格取得を通じて知識・技術・技能のより高い習得を目指す。提出期限を厳守させる。	④⑤	B		
		部活動や学校行事への積極的な参加を呼びかけ、委員会や係の仕事・勝工祭・修学旅行等を通じて学校やクラスへの帰属意識を持たせる。	⑨⑩⑪	A		
		インターンシップ・工業現場実習・企業見学等を通して職業意識を持たせ、進路決定の準備を始めさせる。	①③⑥	A		

3年次	一人一人の適性を踏まえた上で、具体的な進路目標を現実のものとしていく。	進路指導部と連携し、社会の現状を把握するとともに、昨年度の適性検査をもとに、生徒に自分自身の適性を冷静に判断させ、その能力・適性に応じた進路指導を推し進める。①②③	B	B	○進路希望調査や三者面談の実施により、生徒が自己の現状を把握し、進路活動に真摯に取り組ませる。 ○夏季休業中など業者によるガイダンスや面接など、職員全体で指導・支援する。 ○進路決定後、気の緩みが予想されるが、根気強い指導を行い、大きく崩れることのないように生活させる。 ○18才成人になったこともあり、社会に出る上で必要な知識を身に付けさせるため、講演会やセミナー等を計画・実施する。
		保護者と密な連携を取りながら、学校生活の安全を最優先させ、きめ細かい助言をしていく。⑦⑧	A		
		授業に真剣に取り組むことにより、知識・技術・技能のさらなる習得に努めさせる。また、進路希望に応じた学習を推し進めることを通じて基礎力の充実を図る。④⑥	A		
	ひとりの人間としての社会常識を身に付けさせることはもちろんのこと、他人を思いやる心を育てる。また必要に応じて我慢強さと忍耐力を発揮できるようなたくましさを育成する。	校則や公衆道徳を尊重し、進んで守ることにより、社会規範意識の向上を図る。⑦⑨	C		
		挨拶を励行し、他人への思いやりを忘れない心をさらに育てる。⑨⑩	B		
学校運営	豊かな心の教育の充実を図る。	道徳教育や細やかな生徒指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、倫理観や規範意識を高める⑦⑨	A	B	基本的な生活習慣の確立は、達成できているが、地域の中学校との交流は不十分で、出前授業等での交流が必要。広報活動、地域イベントへの参加は引き続き積極的に行っていく。地域企業との連携も継続していく。
	情報教育と国際理解教育の推進を図る。	授業や各種行事を通じて情報教育と国際理解教育を積極的に推進する。④⑥	B		
	地域の中学校との連携を図る。	地域の中学校との交流事業や積極的な広報活動を通じて中学校との連携を図る。⑫	B		
	地元企業や大学等との連携を推進する。	地元企業や大学等との連携を更に推進し、進路指導・キャリア教育の充実を図る。①②③	A		

※評価基準：A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない